

空港対策・機能強化等推進特別委員会

NAA中期経営計画の策定と成田空港の更なる機能強化の進捗状況

(令和4年6月9日定例会)

計画の概要と更なる機能強化の進捗状況

5月27日、空港会社は「Restart NRT 2022-2024 年度 NAAグループ中期経営計画」を策定しました。同社は、航空需要がコロナ禍からの回復途上にあることを踏まえたうえで、安全・快適な人・物の往来再開とグローバル航空ネットワークのさらなる発展に向けた準備を着実に進めるとともに、アジア経済圏の人口・経済の変貌、デジタル化の進展、サステナビリティ機運の高まり、自然災害の激甚化、国際情勢の不安定化など、様々な環境の変化を見込み、空港経営の在り方を大きく見直すとしています。

成田空港の更なる機能強化の進捗状況としては、現在、空港会社が用地取得を進めており、併せて埋蔵文化財調査や物件調査などの各種調査を実施しています。また、本格造成工事前の準備工事として、今後、B滑走路延伸部の東関東自動車道の切り回し道路工事およびC滑走路新設部の排水整備工事に着手するとしています。

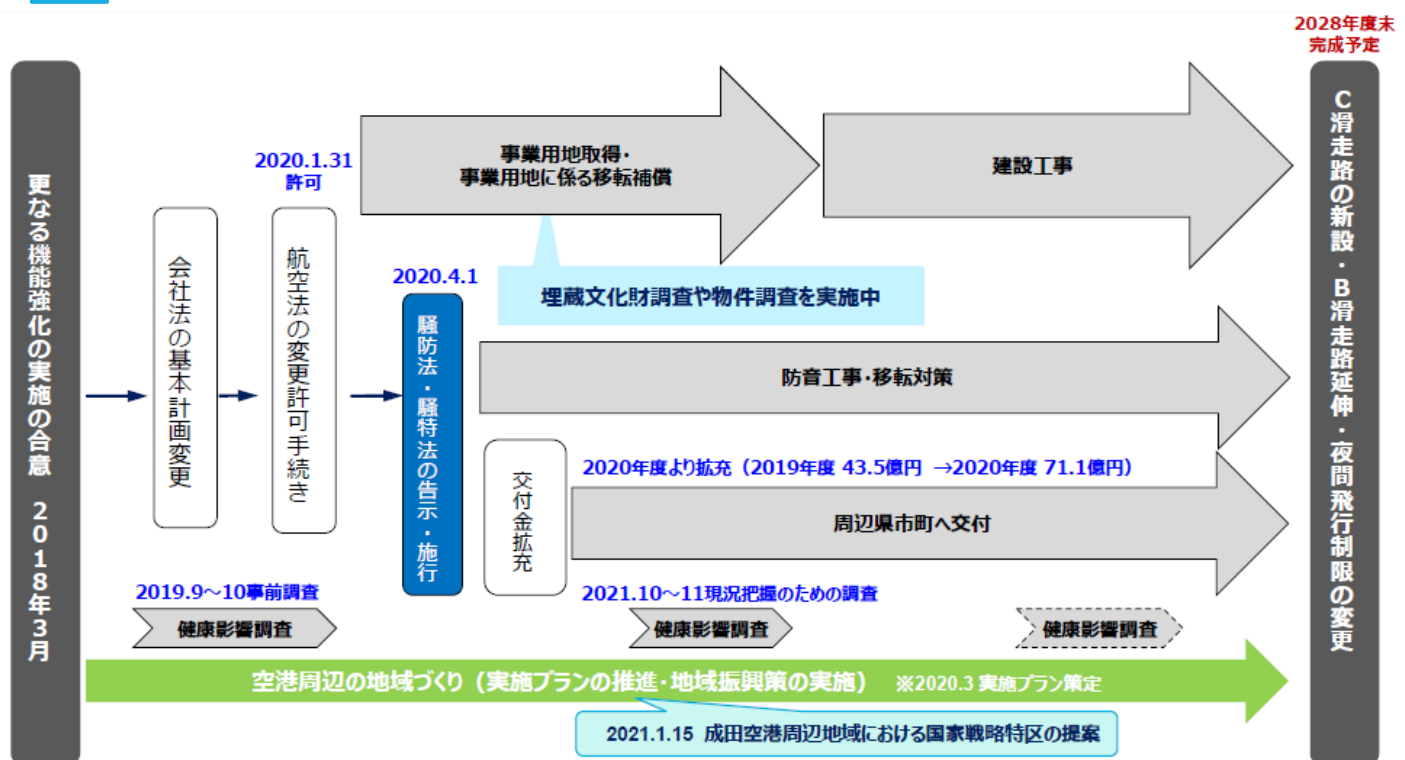
このほか、防音工事や移転補償などの環境対策についても、引き続き、滑走路整備に遅れることなく着実に実施するとしています。

主な質疑(令和4年6月定例会)

Q 現在、羽田空港では着々とアクセス改善が図られているが、空港会社はこのような動きをどのように捉えているのか。

A 「新しい成田空港」構想の中でも鉄道アクセスの課題は認識しており、弊

社が主体となる事業ではないものの、外部有識者との意見交換を踏まえながら、関係事業者と調査・研究し、技術的な問題点等も明らかにしながら解決策を講じていく必要があると認識している。



航空機からの落下物対策の強化の要請(令和4年3月定例会)

部品欠落の概要と関係機関への要請

令和4年2月11日午後9時2分、成田空港A滑走路南側に着陸した日本貨物航空226便より、機体の一部が欠落したことが確認されました。欠落部品は同日の臨時点検では発見に至らず、翌12日の定時点検において、A滑走路西側の芝地付近にて発見され、日本貨物航空による欠落部品であることが確認されました。

部品は左主翼下面のフェアリング(主翼の高揚力装置の可動部を覆うカバー)で一部金属のプラスチック製、長さ約4.4メートル、重量約60キログラムと非常に大きなものであり、本件事案は一步間違えば住民の生命および財産に甚大な被害を及ぼすことになりかねない

ものであったことから、空港会社は日本貨物航空に対し、本件事案の原因究明と再発防止策の策定を強く求めるとともに、成田空港に就航する航空会社に対しても、点検強化および更なる落下物防止対策の徹底を再度要請したとのことでした。

また、成田空港周辺9市町で組織され、成田市長が会長を務める成田空港圏自治体連絡協議会においても、2月15日に国土交通省航空局、成田空港事務所、空港会社、航空会社運営協議会の4者に対し、落下物防止対策の徹底および事案発生時の迅速な報告について要請を行ったとのことでした。



主な質疑

Q 飛行コース直下の住民にとって、航空機からの落下物は大きな問題である。今後の空港会社の対策について伺う。

A 脱落部品の早期発見のため、委託業者等からも広く情報を収集できる体制の構築に努めるとともに、目視確認ができない夜間時間帯の点検に対応できるよう、高感度カメラ等を使用した最新技術の導入についても検討している。

Q 成田空港では、これまでも落下物事案が発生しているが、原因究明と再発防止について、どのように考えているのか。

A 現在、日本貨物航空、ボーイング社等において原因の究明に努めており、詳細が分かり次第、周辺市町にも説明させていただくが、落下物事案は未然防止が何よりも重要であると認識している。昨年4月からは、部品欠落等を確認する機体チェックの機数を約2倍としており、人員体制を含めた見直しを行いながら、未然防止に力を入れている。